



6月議会できまがい市議質問

「高校魅力化」・「図書館司書複数配置を」



6月12日から開催された、第2回夕張市議会での、くまがい桂子市議の質問と答弁の概要をお知らせします。

◆ 1、高校魅力化プロジェクトについて ◆

質問1 ここ数年、夕張中学校から夕張高校への進学率が、5割前後へと減少が続き、昨年の3月議会では意見として『高校魅力化』の必要性を述べた。

また、昨年度から、夕張高校の魅力化として、各種資格試験受験料の半額補助や、通学バス費用の全額補助等が始まったが、市のHPの会議録などをみると、自治体が主体的にかかわっていない高校が、危機にさらされている

という報告があった。4月に開催された「夕張高校の未来を考えるフォーラム」の中で、様々な魅力化プロジェクトが紹介され、また、全国で60近い高校が海外短期研修を実施している。高校魅力化プロジェクトと海外短期研修について、見解を伺う。

「幼保小中学校の教育を高校につなぎ、地域教育の連続性と一貫性を構築していくことが大切」ということ。このフォーラムの中で、夕張の抱える課題こそ、他地域にない最高の教育素材。夕張の可能性は無限大である。後は覚悟を決めてや

◆ 2、図書館司書・学校図書館司書について ◆

質問2 図書館が「地域の知の拠点」として、子どもや高

育て地域」としての、教育ブランドを築き、若い家族のU・イターンを引き込み、少子化に歯止めを。また、教育現場では、学校司書が入ることによって、読書環境が変わり、読書量が増え、自分で物事を考えるようになり、子どもたちが好奇心を燃やし始める。教育・ボランティアが協力して読書指導や読み聞かせなどに当たっている。複合施設の供用開始に向けて、ボランティアとともに、共同で効果的な図書館運営を検討している。

「子育て地域としての教育ブランド」で地域の存続を 「地域の知の拠点づくり」で定住人口の増加を

【答弁1】

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

【意見2】

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

「夕張高校の未来を考えるフォーラム」は、今年創設した「地域人材育成事業助成金」を活用し、PTA連合会が主催したもので、最大の学びは、「高校の課題」を地域が一丸となって、

市民と野党の共闘で 危険な安倍暴走政権を 退陣させよう！

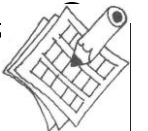
共謀罪が強行された15日、めぐが武10区予定候補が夕張入りし、沼ノ沢・紅葉山・楓の3か所で安倍暴走政権を批判しました。

小雨も降る中、めぐが予定候補は、「加計学園疑惑・森友学園疑惑について、国民にまともに説明をしよう」とし、秘密保護法、戦争法、そして本日の共謀罪の強行採決は、戦争する国づくりに直結する。と、安倍首相を批判しました。



連合政権を実現させよう。市民と野党の共闘を訴えました。

運動中のトラックからの応援や、市民が手を振ってくれた場面もありました。宣伝カーで市内を移動しながら、くまがい桂子市議がマイクを握り、「共謀罪は、多くの国民が政府の説明は不十分と感じているのに、本日早朝強行採決されました。民意を無視して、戦争する国づくりへ突き進む、危険な安倍自公政権に政治を任せておくことはできません。市民と野党の力で、次の総選挙で必ず退陣させ、民主連合政権を実現させよう。市民と野党の共闘を訴えました。



くずさんの 夕張歴史散歩(13)

大正10年のたたかい ⑬

卑劣なり、会社みたび策動を

連合会本部の幹部らが夕張を離れると、厚顔にも一向に協定実行の兆しも見せません。

「支店長に一任せよ」との約束は、まるで知らぬ顔です。

そればかりか、強力に組合つぶしに出て、難癖をつけてつぎつぎに解雇。非道な暴力をもって退山を強行します。

頻々と実状が本部に

鑛夫総連合本部には、現地から会社の背信行為と事態悪化の急報が届きます。しかし、本部では折からの足尾争議支援に忙殺され、夕張支援に手が回りません。

ようやく7月に入り5日、麻生、坂口の二人が急行します。しかし、3ヶ月近く執拗な会社の攻撃によって、夕張連合会の組織は、疲れ果て壊滅に瀕しています。それでも残る組合員は、麻生・坂口を中心に組織の立て直しと闘争に転じます。

約束を破る高城支店長糾弾

7月7日、まず高城支店長を糾弾するビラを全山に配布して大きな反響を呼びます。

「会社は社会公機の面前で締結した条項を裏切り、労働者を地獄につき落とし高城支店長こそ人面獣身である！」

ついで8日、夕張警察署長の責任を追及。10日、2回目のビラを散布、夕張館で大演説会を開催、大いに氣勢をあげます。

11日には夕張炭鉱病院へおしかけ、医師の伊藤金四郎を糾弾します。それは、炭鉱で怪我をしても本人不注意とされるなど、公傷認定をめぐってトラブルが絶えず、憎しみの的になっていました。



紙智子「国会かけあがる記」

参議院議員

紙智子

安倍政権が震え上がる審判を

十日は久しぶりに仁木町での後援会の集いに、翌日には札幌市厚別区の行動に参加し、午後から東京に戻って都議選の応援に入りました。

安倍暴走政治に対する国民の怒りは、東京も北海道も同じです。テレビや新聞で、リアルタイムで情報が流れ、安倍政権への不安、怒りが広がりました。八王子市では、街頭で年配の女性が「もつとしかりしてよ！」というので、「何に腹を立てているのですか？」と聞くと「安倍さんよ、安倍さん、何とかして！」と加計問題で前文部科学省の事務次官を攻撃する安倍政権の卑劣さに対する怒りをぶつけられました。

一方、厚別区では、訪問先で「テレビ見て共謀罪に対する金田法務大臣のひどい答弁に腹を立てていたところなの、ほんとに何とかならないの？」と言われ、安倍政権の横暴ぶりを話すとともに、「都議選で日本共産党を勝利させ、安倍政権が震え上がる審判を下しましょう！ そのためにお知り合いの方に支持を呼びかけて！」とお話しし、しんぶん赤旗も購読していただきました。

六月十八日で国会が閉会となりましたが、加計学園、森友学園など国政の私物化疑惑にはふたをしたまま、内心の自由を踏みにじる共謀罪法の審議を打ち切り、強行した安倍政権の傲(ごう)慢(まん)さに、国民の批判がますます高まっています。各紙の世論調査でも、軒並み内閣支持率が急落し、不支持が上回ってきました。都議選で審判を下し、安倍政権を退陣に追い込みましょう！